

## Winlink

JJ1SXA/池

皆さんもご存知だと思いますが、アマチュア無線総合ニュースサイトと謳う「hamlife.jp」というのがありますが、その中の記事で、2022年5月15日の第489回放送は「WinLINKとVARAモデムと非常通信」というのを見て、「Winlink」というものの存在を知りました、だが、そんなことをすっかり忘れ去っていましたが、今回ひょんなことからこれを思い出し、少し勉強してみました。

本家本元のHP「WIN LINK Grobal Radio Email…<https://www.winlink.org/>」を開くと、「Winlinkグローバルラジオメール…は、アマチュア無線と認可された政府局のネットワークであり、インターネットが存在しない無線経路を使用して世界中の無線電子メールを提供します。」と書いてあります。

要は、「Winlink」は、アマチュア無線網を使った電子メールシステムで、米国では広くネットワークができていて非常通信体制に組み込まれているようで、日本以外の近年のアマチュア無線非常通信では主流になりつつあるようです。

Winlinkは、簡単に言うとアマチュア無線でメールを送受するというものだ、ゲートウエー局にアクセスできれば、送信可となり、自分宛のメールがあれば、自動的にダウンロードする事ができるのだ。

無線で使うモードは「PACTOR」や「WINMOR」が主流だったが、現在は、EA5HVKの開発した「VARA」が多くの局に使われているようだ。

WinlinkのHP (<https://www.winlink.org>) には、「Winlink Expressの登録にはライセンスは含まれていません、登録は任意であり、プログラムを使用するために必須ではありません、登録料はコールサインあたり24ドルです。(2024年1月現在)」となっています、無料での試用は問題ないようです、というわけで、一寸様子見で試用してみることにする。

Winlinkをやるには次の3つのことが必要だ。

### 1. 無線機の設定とPCのUSBドライバーのインストール

USBで無線機と接続するなら、そのドライバーをインストールする必要があります、デバイスマネージャーでインストールされたかどうかとポートの番号の確認をする。

### 2. VARA HF(モデムソフトです)のインストール

このソフトは無線機とWinlink Expressの間でモデムとして動作するソフトだ、これをダウンロード、圧縮ファイルを解凍して、フォルダ内にある「VARA setup.exe」を実行するとインストール完了。

### 3. Winlink Expressのインストール(メールソフト)

WinlinkのHP (<https://www.winlink.org>) にアクセス、左側の列の下方の「Winlink Accounts…」のところの「アカウントの取得方法」にある「Winlink Express」クリックで、<https://www.winlink.org/WinlinkExpress>が開き、ダウンロードできる、ファイルを解凍し、Winlink\_Express\_install.exeを実行。

この後は、無線機のセッティングです、「VARA HF Winlink」をプルダウンで選択して、「Open Session」を押す、メニューバーの「settings」の「Radio Setup」をクリック、「select Radio Model」で無線機機種を選択、これで準備完了。

VARA HFは「Open Session」を押して起動、Settingsの「VARA Setup…」をクリック、「VARA Licences」の一番上に自分のコールサインを入力、Settingsの「SoundCard」をクリック、仮想COMポートドライバがうまくインストールできているなら、Device Input、Device Outputに「USB AUDIO CODEC」が表示される。

赤いTuneボタンを押すと送信無線機がコントロールされて送信状態になります、ALCを調整、SWRも確認。

運用は、「Channel Selection」を押し、どこのゲートウェイに接続するかを選択、周波数が異なるので、決定後はSWRの確認と調整が必要。

接続先をダブルクリックで選んでSWRがOKなら、チェックからメニューバーにある「Start」を押すと送信が始まります、無線機のモニター音がONになっていれば、ピロピロという音が聞こえ、画面の方でも接続リクエスト中ということでCalling △△になります。

VARA HFの下の方にはリトライ回数が表示されます、なかなか1回目で接続しません、15回リトライを繰り返してダメだった場合は、Winlink Sessionのウインドウの方にFailure △△と表示され、接続失敗として終了されます、有料版の方が、早いしつながりやすいようだ、有料版は、自分専用のメルアドが割り当てられる、「コールサイン@winlink.org」だ。

以上が私の試用結果だ、日本のアマチュア無線の非常通信体制は、各バンドに、非常通信周波数を定めている他、4,630KHzを非常通信周波数に定めています、ここは和文CWの愛好家の交流場所になっているだけの感があります、自衛隊、警察、海上保安庁、消防等の、若い通信担当の人たちは、和文ができない人が大部分、非常時にこの周波数を聞いて活用する人は、普段からこの周波数で和文の腕を磨く？メンバーのアマチュア局以外は皆無では無かろうか、ということで、この周波数を存続することは無意味の感がある、総務省は、非常通信についてもっと考慮する余地があるのでは無かろうか。

確かに災害時は、有線電話回線は不通となり、通常のインターネット回線も利用できなければ、無線通信に頼らざるを得ない状況になるであろうことは当然だが、無線とインターネットをコラボしたWinlinkは最強の手段となるでしょう。

総務省は、このWinlinkを非常通信体制に取り込み、積極的に周知徹底と、サポートを考えてもらいたいが。hw？

私の、知識不足や文章のまずさで、誤った表現があるかも知れませんが、概略の説明と割り切り、導入は、自己責任で実行してください。

WinlinkのHPは英語ですが、私のブラウザでは、自動で日本語に変換された状態で表示され、英語苦手の私には大助かり、然しWinlinkが扱うメールは英文のみ(日本語は、英文の説明前置でローマ字という手があるようだが…hi) (2024年1月記)